日本海スルメイカ漁場調査
（抄　　録）

黄金崎　栄一・今村　豊

１９９９年４月～１０月に試験船東奥丸（１４０トン）でスルメイカの漁場調査等を実施した。

沿岸域におけるスルメイカ

１９９９年本県日本海沿岸域に来遊したスルメイカは、例年並の５月下旬（小泊５月２５日・三厩５月２３日）に初漁がみられた。日本海主要港（深浦・鰺ヶ沢・下前・小泊）では、前期の漁獲は９０年代では最低だった９８年より低調に推移したが、７月後半からは状態がやや好転し始め、漁期終了時には４，８８５トンと前年の１．５倍の水揚げ量となった。しかし、９０年～９９年の平均漁獲量５，３８７トンの９０％となっていた。

日本海全体のスルメイカの漁獲量は１９９２年に２３．７万トンと近年では最も高い漁獲量を記録したが、１９９４年以降はやや減少傾向にあり１９９８年には１０万トンに落ち込んだ。しかし、１９９９年には１２．６万トンに増加している。

沖合域におけるスルメイカ

本県における日本海沖合域のスルメイカの水揚げは、中型いか釣船による八戸港への水揚げ（一部太平洋の漁獲物含む）で、９９年漁期（７月～翌年４月）までの水揚げ量は２３，５５６トンとなっており、前年同期の水揚げと比較すると１７３．２％（前年１３，５９８トン）となっている。

水揚げ量が増加した要因として、日本海スルメイカの資源量の回復と北太平洋のアカイカの漁獲が不振だったため、中型いか釣船の漁獲努力が日本海スルメイカに傾いたためと考えられる。

ちなみに１９９９年の中型いか釣船のTAC漁獲可能枠は８４，０００トンの設定に対して、７４，１１３トン採補しており、採捕率は８８％と高かった。

発表誌
平成１１年度いか釣漁場開発調査資料２５号
平成１１年度外洋性イカ（スルメイカ・アカイカ）に関する生物測定・標識放流・海洋観測結果基礎資料集　青森県水産試験場